

魅せられて

木村 敏美

野菜作りを始めてかれこれ二十年以上になる。全くの素人で、山を切り開いた土地を買った為、畑の土作りから始まった。又孫達に安心して食べて貰えるよう、無農薬と有機栽培で育てた。ようやくそれなりにできるようになってからも、災害や気候の変化で駄目になったり猪に一夜にして食べられたりする。鳥や虫達からの被害もしばしば。それらとの闘いはきれいな事ではすまされない。

ある時首すじに何か触るものを感じて思わず払いのけると百足だったり、土を掘っていると大きなガマカエルが顔を出し、傍をへびが通ったりもする。又葉の裏にはパリコレ顔負けの鮮やかな緑に黒の水玉模様のデザインの芋虫や、某国の兵士のように整列した毛虫が全体にはりついて、刺されると痛い。

また、良くできても店にでている価格の安さに愕然とし、農家の苦勞を思う。

正に汗と涙の中で続けてこられたのは、この場所の空気と景色の良さ、野菜の美味しさと美しさに魅せられたからだ。

遠くに青く見える背振山や九千部山、眼下に広がる針葉樹と落葉樹の深い森は四季折々の美しさで目を楽ませしてくれる。

玉ネギ、ジャガ芋、里芋、にんにく、生姜、夏野菜、苺、スイカ等色々作った。形は悪いが、味や色は格別だ。

孫達は曲がったキュウリを丸かじりするのが大好きだし、人参は青臭さが残る懐かしい味がし、ホウレン草の根本は独特の旨みがある。

ブロッコリーや青菜をゆでた時の緑色は、市販にない絶品の鮮やかな美しさだ。又一皮剥いた白ねぎの輝き。赤玉ねぎの深い赤紫の色、赤カブの可愛いピンクの色。

魅せられてここまでできたものの、動物や虫達との闘いは進行中。その中で折り合いがついたのが蜂との関係だ。雀蜂は別としてよく来る蜂は、彼等に触れたりしない限り刺したりしない。ぶんぶんとうるさい蜂達の傍での草取りでの一句。

蜂は蜂 私私 私 ただ仕事

これからの闘いの課題は私達自身の体力がいつまで続くかだ。
蜂も見ているに違いない。